

## 市長記者発表

いまばりまるごと子育て支援～今治版ネウボラで進む  
子育て環境の充実～

（市長発言内容

- 1 今治版ネウボラ拠点施設の整備について
- 2 基本計画（案）の概要
- 3 今後のスケジュール
- 4 相談サテライト
- 5 遊び場サテライト ）

令和6年3月28日

皆様方には、年度末のお忙しいなか、お集まりをいただき有難うございます。

本日は、私が市長就任以来、「子どもが真ん中で輝くやさしいまち“今治”」実現のため、公約の目玉事業に掲げて取り組んでおります「今治版ネウボラ」推進による子育て環境の充実につきまして、現時点での状況を報告させていただきたいと思っております。

本日のポイントは3つございます。

まず1点目は、先日3/21に「今治市子ども・子育て会議」の泉 浩徳 会長から答申をいただいた「仮称・今治版ネウボラ拠点施設整備基本計画（案）」に関する事、

次に2点目は、市内全域で子育て支援体制を構築するための「相談サテライト」の整備に関する事、

そして3点目は、子どもが安心して遊ぶことのできる公園「遊び場サテライト」の整備に関する事、

以上の3点でございます。

## 1 今治版ネウボラ拠点施設の整備について

それでは、まず1点目の「今治版ネウボラ拠点施設の整備」についてでございます。

私は市長就任直後から、公約の実現に向け「今治版ネウボラの推進」に強い思いで取り組んでおりまして、子どもが真ん中親会議、子ども・子育て会議、子育て世代や中高生を対象にしたWebアンケートなど、さまざまな形で多くの市民の皆様方からご意見・ご要望をお聴きするなかで、

○市内中心部に点在する子育て関連施設を移 転して  
集約してはどうか

○備えるべき機能としては「子育て世代活動 支援セ  
ンター」「児童センター」、「保健センター」、「地域交流セ  
ンター」の4つを有する複合施設としてはどうか

といった意見を多く頂戴したことを踏まえて、令和5  
年3月に「基本構想」という形で、ネウボラ拠点施設整  
備の方向性を取りまとめさせていただきました。

この基本構想を基に、令和5年度は、子育て支援事業  
の諮問機関であります「今治市子ども・子育て会議」に  
おいて、施設のあり方、導入機能や施設規模、配置計画、  
概算事業費、事業手法等に関して、専門的な観点から審  
議を重ねていただき、先週3/21に「基本計画（案）」と  
して答申をいただいたところでございます。

## 2 基本計画（案）の概要

この基本計画（案）の概要ですが、スライドをご覧ください。

「つどい つながり はぐくむ みんなの居場所」という

基本理念のもと、スライドの左側にありますように「拠点のあり方」として3点、

①1つ目は「子育て世代のハブとなる拠点」として、子育て支援機能を強化拡充する役割を担うこと

②2つ目は「こども・子育て世代を中心に、誰もが利用できる拠点」として、市内全域から幅広く人が集まる施設とすること

③3つ目は「中心市街地におけるリーディングプロジェクト」としての役割を果たせるよう、まちなかの賑わいを創出するような、本市の子育ての中核を担う象徴的な存在となること この3つが示されております。

次に、スライド右側ですが、

①の整備用地としては、旧日吉小学校の一部と、隣接する中央公民館、日吉公園、旧中央乳児保育所、旧働く婦人の家を含む一団の公有地を想定しております。

②の施設機能としては、基本構想にもあったとおり、新たな子育て支援機能を担う「子育て世代活動支援センター」と「児童センター」、そして中央公民館の機能を代

替する「保健センター」と「地域交流センター」の大きく4つの機能を持たせることとなっております。また、建物に付帯して、隣接する日吉公園の整備や150台分の駐車場の確保も必要となっております。

③の施設規模ですが、これら4つの機能を発揮させるための必要面積を確保するためには、延床面積が約7,850㎡必要になると想定しております。

④の施設整備費用の概算でございますが、現時点での建物面積（7,850㎡）から想定される整備費用は、「今治版ネウボラ」推進の核となる子育て支援機能の部分が、およそ31億円、現在の中央公民館の機能を代替する保健センター・地域交流センター部分がおよそ40億円で、合わせて約71億円規模となります。

なお、この費用には、外構工事費や解体撤去費、防災・省エネ対応といった付帯する費用は含まれておりません。また、今後の物価高騰や人件費の増嵩に伴いまして、さらに事業費が膨らむことも考えておく必要があると思っております。

いずれにしても、多額の整備費用が必要になりますこ

とから、こども未来基金の計画的な造成をはじめ、国の補助金の活用など、できるかぎり負担を抑えられる方法を検討してまいります。

⑤の事業手法については、民間事業者へのサウンディング調査などを踏まえ、さまざまな整備手法についてのメリット・デメリットを比較考量した結果、現時点では、施設の設計から建設、管理運営までを一括発注する「DBO（デザイン・ビルド・オペレーション）」方式が最も望ましいのではないかとのご提案をいただいております。

次のスライドは、「拠点施設のあり方」を踏まえた、施設の利用イメージをまとめたものでございます。

その次のスライド、想定する事業スケジュールにつきましては、新年度・令和6年度からの約2年間で「事業者選定・事業者公募」のための準備期間となります。その後、R8年度から設計に入り、R9年度に着工、R12年度頃に供用開始といったスケジュールとなります。

ネウボラ施設を整備するといった当初の計画に加えて、

中央公民館機能も併せて一体的に整備するといった方向となりましたため、全体の規模も大きくなり、また、単なる施設整備ではなく、中心市街地の再整備を先導するプロジェクトとして、シビックゾーン再整備計画や立地適正化計画との調整も必要となることから、完成までには少し時間を要する予定でございます。

### 3 今後のスケジュール

次に、スライドの下側、当面のスケジュールでございますが、まずは、より多くの市民のみなさまにご意見をいただくため、施設のあり方に対する「パブリックコメント」を、本日より約1か月間実施させていただきます。

また、昨年8月に策定いたしました「今治市市民参画の指針」に基づき、今月1日に新たに設置した「今治市民提言会議」を4月12日に開催し、大規模施設となる今回の「ネウボラ拠点施設」について、改めて別の角度から、市民の皆様のご意見をいただく予定です。

その後、5月上旬を目途に、基本計画の成案を整え、公表できればと考えております。

なお、施設完成までにはまだ時間があることから、その後も、さまざまな機会を捉えて、市民の皆様とともに、利用される方にとって本当に使いやすい機能、運営方針などの議論を深めて、それらも含めて、設計・施工に反映させて行きたいと思います。

施設を創り上げるまでの時間、その間の議論も、子どもたちの未来を考えるための貴重な機会となります。施設完成まで長い道のりではございますが、拠点施設に多くの世代が集い、支援の輪が広がり、次世代を担う子どもたちを地域のみんなで一緒に育む機運の醸成に繋がる「こどもが輝くやさしいまち今治」に相応しい施設にしたいと考えておりますので、市民の皆さま方におかれましては、ご期待を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

#### 4 相談サテライト

次のスライドをご覧ください。

こちらは、市内全域で子育て支援体制を構築するため



の「相談サテライト」の整備についてでございます。ネウボラ拠点施設をぐるりと取り囲んでいる、このオレンジの部分が「相談サテライト」でございます。

市内全域で子育て環境を充実させるためには、ネウボラ拠点施設の整備だけでなく、広い市域をカバーする「子育て支援体制の構築」にも取り組む必要があるとの考えのもと、市内のどこにいても相談や情報が行き届き、安心して楽しく子育てができるよう、市内各所の子育て広場や保育所などを「相談サテライト」として位置付けて、順次整備を進めてまいります。

既に、今年度は、島しょ部の「親子ひろば」やどこからでも通える広域の放課後児童クラブを新設するなど、地域の身近な窓口でしっかりと相談支援を受けられる体制の強化・拡充を図っているところでございます。

また、新年度には、イオンモール今治新都市において、認定こども園や幼稚園など子育て支援機関の協力のもと、保健師や助産師、保育士といった専門職への相談ができる「機能的な相談サテライト」を新設するほか、養育環境等に課題を抱える児童等の居場所づくりにも取り組む

予定でございます。

## 5 遊び場サテライト

次に、この図の「相談サテライト」外側、囲むような形で広がっている緑色の部分が「遊び場サテライト」でございます。

ネウボラ中核施設の検討を進める過程において「子どもが安心して遊ぶことのできる公園が欲しい」との意見を多くいただきましたことから、今年度、公園整備の全体計画を見直し、出来る部分から迅速に整備するとの方針のもとで、「遊び場サテライト」の整備を開始したところでございます。

まずは、次のスライド、令和5年度「すくすくガーデン」完成状況の写真をご覧ください。先月リニューアルオープンした今治交通公園をはじめ、市内各所の大型公園5か所に、乳幼児専用エリア「すくすくガーデン」を整備いたしました。

次のスライド、公園リノベーションマップをご覧ください

さい。

ネウボラ拠点施設の「遊び場サテライト」として、島しょ部地域を含む市内各所の比較的大規模な公園を「子どもたちのための公園」として、国の交付金も活用しながら計画的にリノベーションすることとしております。

このマップでは、市内を4つのエリアに分けています。旧今治市を「アーバンエリア」、朝倉・玉川を「フォレストエリア」、波方・大西・菊間を「シーサイドエリア」、島しょ部を「アイランドエリア」としておりました、エリアごとにベースとなる公園を設定しています。

具体的には、アーバンエリアでは、「しまなみアースランド」、バリクリーンに隣接した市営住宅跡地の「(仮称)町谷きっずパーク」、「大新田公園」、「市民の森」、「今治交通公園」、「桜井総合公園」をベースにしています。

次に、アイランドエリアでは、伯方の「(仮称)しまなみきっずパーク」、「よしうみバラ公園」、「安神山わくわくパーク」をベースにしています。なお、「(仮称)しまなみきっずパーク」は、新しく整備を進めている「しまなみ総合庁舎」の近隣にある伯方農村公園に愛称をつけ

て、整備することを考えています。

次に、フォレストエリアでは、「玉川総合公園」、「朝倉緑のふるさと公園」、「鈍川溪谷」をベースにしています。

そして、シーサイドエリアでは、「藤山健康文化公園」、「波方公園」、「瓦のふるさと公園」をベースにしています。

なお、それぞれのエリアの詳細については、この記者発表後に、梶川公園緑地課長から個別にご説明をさせていただきますので、宜しくお願いします。

次のスライド、こちらは、アーバンエリアで整備を予定している「ドッグラン」施設でございます。まずは令和6年度、桜井総合公園と大新田公園の2箇所、試験的な運用を開始する予定でございます。ネットフェンスを設置し、小型犬専用エリアと中大型犬専用エリアに区分し運用する予定です。

最後のスライドをご覧ください。

こちらは「遊び場サテライト」整備の先陣を切る形で、

バリククリーンに隣接した市営住宅跡地に、現在、整備を進めております「(仮称)町谷きっずパーク」のイメージ図でございます。

公園の面積は、約 9,800 m<sup>2</sup>、このうち遊具を配置するエリアが約 3,300 m<sup>2</sup>ありまして、このイメージ図のとおり、乳幼児から児童（概ね 1~12 歳）までの幅広い年齢層を対象とした遊具を設置し、より多くの子どもたちがふれあい、交流しながら楽しめる場を整備していきます。

なお、遊具については、すくすくガーデンの整備のと同様に、遊具メーカーに提案してもらったものの中から、地元の子どもたちから人気投票を行い、1 番人気のあった遊具を配置します。また、公園のネーミングは、皆さんに親しまれ、ともに育っていける憩いの場となるよう、地元の子どもたちをお願いしたいと考えています。

加えて、遊具配置エリアの他に、自由な遊び場や多世代交流空間の確保に向け、多目的な利用が可能な広場を約 1,900 m<sup>2</sup>整備します。他には、駐車場、トイレ、植樹帯なども整備していきます。完成は今年の 12 月、子どもたちへの素敵な「クリスマスプレゼント」になればと思

っております。

以上で、「今治版ネウボラ」推進に関する、現時点での「総括的な取り組み状況」の説明を終わらせていただきます。有難うございました。